

筆記試験 -選考が始まる前に準備を終わらせるのがポイント-

近年の企業の採用は「人物本位」と言われますが、企業の採用で重視される選考過程の第2位が「筆記試験（適性試験）」です。企業が求める「優秀な人材」かどうかは、学歴や偏差値のみでは測れません。ただし、社会で通用する常識や、物事に対する分析力・洞察力など、基礎的な知識や教養を持っているかどうかは、必ず問われます。

実際に採用選考の過程では多くの企業が筆記試験を実施し、特に選考の最初の段階で母集団を絞り込むために筆記試験が利用されるケースも多く見られます。最近ではこれまでの紙ベースでの筆記試験に代わり、インターネット上で試験を行う「WEBテスト」を導入する企業も増えています。

いかに素晴らしい目標や熱意を持っていても、この筆記試験をクリアしなければ、自分自身をアピールする場となる「面接」に辿り着くことはできません。筆記試験は、参考書1冊やるか、やらないかで大きな差が出ます。きちんと対策を行うことが大切です。

せっかく自分が入社したいと強く思った会社に、筆記試験で落とされるほど悲しいことはありません。選考が本格化する時期は、履歴書やエントリーシートの準備で追われてしまいます。早めに筆記試験の対策を終わらせましょう。

※近年、代理受験など不正を行う学生も増えているため、最終面接の前に紙によるテストを行う会社が増えています。Webと紙で点数の差が大きいと不合格となる場合があります。

1. 筆記試験の種類

筆記試験にはたくさんの種類があります。代表的なものを紹介します。

【SPI 適性検査】

企業の筆記試験の代表格で、業界に関わらず使用頻度が最も高い試験。言語（国語）・非言語（数学）の基礎学力を問う能力検査と、性格適性検査が加わる場合もある。

- 言語 … 同意語、反対語、漢字能力、長文読解等。
- 非言語 … 虫食い算、演算記号、和算、速度、割合、規則、不等式、N新法、論証、図形、空間、グラフ読み取り等。
- 性格適性 … 300～500問の簡単な質問に「はい・いいえ」の形式で答えていくもの。自分を良く見せようとせず、迷わず素直に回答することがポイント。

【一般常識検査】

国語・数学・英語等の学科試験、時事問題や、常識・マナー問題等、組み合わせは様々。

【情報処理適性検査】

特に、IT業界では頻出の試験。合理的ロジック組立、複雑システムのシンプル化、能率的シンプル構築等を検査する試験。システム・エンジニア（SE）職の採用では必須。

【CAB・GAB】

日本エス・エイチ・エル社による適性検査。CABはコンピュータ職用にIT業界で多く使用されているだけでなく、その他の幅広い業種・業界で使用される。GABは総合型の試験で、商社や証券会社、総合研究所などを中心に幅広く使用される。大手企業が選考に取り入れる傾向にあるが、SPIとは全く異なる設問内容なので別途の対策が必要。

【企業オリジナル試験】

企業が独自に作成する試験。SPIや一般常識試験のようなものから、その企業や業界に関する問題など、内容は様々。

【英語】

外資系企業、商社等に限らず、多くの企業・業界で実施。企業独自の問題が主流。

【BAT】

アメリカ経済メディアのブルームバーグ社の教育部門が立ち上げた就職適性テスト。単なる能力判定と違い、受験者の成績などはデータベース化され、企業が採用活動に使う人材バンクとして機能するようになっている。

【WEBテスト】

WEBテストの多くは、ペーパーの筆記試験（マークシート）を基に作られているが、企業によっては、カスタマイズして問題数や出題内容を変えたり、志望動機なども記入させるケースもある。早い段階から、様々な企業のWEBテストに挑戦して傾向をつかむことが重要。また、インターネット特有の回線トラブルやサーバー不調によってエラーになることも。受験期限ギリギリではなく、余裕をもって早めに受けること。

【SCOA（スコア）総合適性検査】

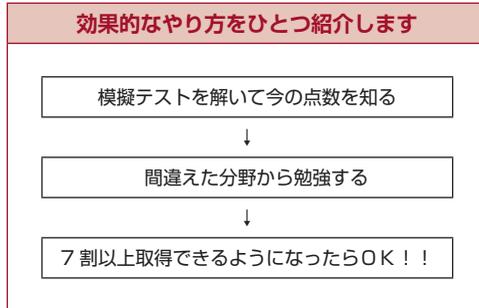
心理学や統計学に基づいて作成された適性検査。大手企業を中心に約2,150社が導入。主に言語、数理、論理、英語、常識の5分野から構成されており、SPI対策とは異なる準備が必要。

2. 筆記試験対策のポイント

筆記試験対策のポイントとして次の3点を挙げます。

(1) 自分自身の実力を早い段階で把握すること

早い段階で自分の実力を知ることによって十分な対策ができます。各種対策本にて早目に取り組みましょう。また、SPI 模試や対策講座を APU CO-OP の Books counter から申し込むことができます。生協会員の方は、書籍を割引で購入できるのでぜひ利用してください。



(2) 制限時間を意識した練習を繰り返し行うこと

SPI 試験など筆記試験攻略の最大のポイントは、制限時間内にいかに多くの問題に回答できるかということです。問題の多くは高校受験のレベルです。問題集やテキストを、「一通りやってみる」のではなく、時間をかけて「何度も繰り返し勉強する」ことで、必然的にレベルは上がってきます。特に文系の学生は非言語（数理）が苦手な人が多いので、今からしっかりと対策をしておきましょう。

(3) 早めの準備が何よりの試験対策

選考が本格化すると、履歴書やエントリーシートの作成に追われてしまいます。早めに取り組めば、気持ちも楽になり、選考も自信を持って臨むことができます。

3. 英語学習について

企業のグローバル化が進み、求められる英語力も高くなってきています。業種によって必要な英語力は異なりますが、高い英語力があれば、その分キャリアの選択肢も増えていきます。英語力や異文化コミュニケーション能力をアピールするためには、履歴書に英語能力検定試験（TOEIC[®]、英検、TOEFL[®]等）のスコアを記載することが必須となります。

一般的には、新入社員に期待する TOEIC[®] スコアは 600 点以上とされています。ただ、大手商社や国際部門など入社後すぐに英語を使う業務を担当したい方は、スコア 800 点以上を目指しましょう。スコアが高いと採用試験の時に英語科目が免除されるなどメリットもあります。

語学力はすぐに伸びるものではありません。できるだけ早く英語対策を開始し、就職活動を始めるまでに必要なスコアを取得しましょう。

【受 験】

何度も受験し、試験に慣れることが大切です。TOEIC[®] などの公開テストは年間で実施される回数が限られています。自身の就職活動のスケジュールを照らし合わせて計画的に受験してください。なお、学内で IP テストも実施していますので、こちらもぜひ積極的に活用してください。